

<論文>

## 日本語教育語彙表におけるオノマトペ：コーパスを使った調査 Onomatopoeia in the Japanese Educational Vocabulary: A corpus-based survey

黄慧  
Hui Huang

東京外国語大学大学院総合国際学研究院  
Tokyo University of Foreign Studies

**要旨：**本稿は、「日本語教育語彙表」からオノマトペを抽出し、分析・考察をすることで、日本語学習者がどのようなオノマトペをどれくらい覚える必要があるのか、そしてそれらのオノマトペは実生活でどのように使われているのかについて明らかにすることを目的としたものである。日本語教育語彙表に収録されている語彙 17,920 語の中から、「オノマトペ辞書」を用いてオノマトペを選別し、335 語のオノマトペを選定した。その上、335 語のオノマトペの形態的特徴および統語的にどのように使用されているのかについて明らかにした。そしてこれらのオノマトペが、それぞれ日本語学習のどのレベルで扱われているのかについても考察を行った。さらに、この 335 語のオノマトペを、「まとめて検索『KOTONOHA』」というプログラムにかけ、全部で 543,915 例のオノマトペを収集することができた。収集したデータを用いて、オノマトペのそれぞれのコーパスでの出現頻度についても分析・考察を行った。

**Abstract:** For this paper, onomatopoeias were extracted from the "Japanese Educational Vocabulary" and the examples were analyzed from the corpus. First, the onomatopoeias which are used by Japanese language learners were researched. Then, the amount of onomatopoeias which Japanese language learners need to acquire were researched. Furthermore, how these onomatopoeias are used in daily life were examined. In this paper, 335 onomatopoeic words were picked up from 17,920 words in the "Japanese Educational Vocabulary", and the morphological and syntactic features of these 335 onomatopoeic words were identified. Then, the levels in which Japanese language learners study these onomatopoeias were examined. Next, 543,915 examples of 335 words were collected from several corpuses using "KOTONOHA Project" and the frequencies of the usage of 335 onomatopoeias were analyzed.

**キーワード：**オノマトペ、コーパス、日本語教育語彙、オノマトペの使用頻度

**Keywords:** Onomatopoeia, Japanese Educational Vocabulary, The frequency in use of onomatopoeia in corpus

### 1. はじめに

日本語におけるオノマトペは、数が多いこと、様々な文成分（副詞的用法を主として動詞や名詞、複合動詞や複合名詞にも用いられること）になり得ること、無数に造語が作り出されること、そして日本人特有な感性的なものであること、などの原因により、日本語学習者が習得困難な分野の一つであるといわれている。それと同時に、オノマトペはコミュニケーションにおいてだけでなく、様々な面で重要な役割を果たしていることも報告されている。

日本語学習者の多様化に伴い、習得すべきオノマトペも変わってきていると思われる。しかしながら、日本語を勉強している学習者としては、どのようなオノマトペを身につけたほうがよりスムーズにコミュニケーションをとることができるのか、そして文章を読む際に意味の理解がしやすいのかを知ることが重要であると考えられる。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

本研究では、「日本語教育語彙表」からオノマトペを抽出し、分析・考察をすることで、日本語学習者がどのようなオノマトペをどれくらい覚える必要があるのか、そしてそれらのオノマトペは実生活でどのように使われているのかについて明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究対象・研究方法

丹野（2005）は、以下のように述べている。

オノマトペとは「音による命名、音自身が名になる」という意味がある。このような意味合いからすると「あるもの、ある現象」を音によって支持すること、「あるものの状態、あるものの発する音」をそのまま写すこと、と定義することができる。オノマトペの狭義の定義としては、音響世界の模写を主とする擬音語、音響世界の声を模写する擬声語がある。また広義の定義としては、事象の状態を象徴する擬態語である。オノマトペを日本語で言えば、「擬声・擬音、写生語、象徴語、擬容語、擬情語、擬態語、象徴音、語音象徴、声喩、音声象徴、音画など」という。

（丹野 2005：17-19）

本稿では、丹野（2005）を参照し、一般的に我々が「擬音語」、「擬態語」と呼んでいるものの総称として「オノマトペ」という用語を用いることにする。

本稿では、日本語教育におけるオノマトペの位置づけを明らかにするために、「日本語教育語彙表 Ver1.0」（<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV/> 日本語学習辞書支援グループ 2015）を利用した。まず、「日本語教育語彙表（Excel バージョン）」をダウンロードし、語彙リストを入手する。「日本語教育語彙表」には、17,920 語の語彙が収録されている。オノマトペを選び出す際には、主観的な判断に頼らないように、客観的な根拠として、オノマトペの辞書を参照することにする。以下、表 1 に参照した辞書を示す。

表 1：擬音語・擬態語辞典の出典（年代順）

編著者	出版年	辞書
天沼寧	1974	『擬音語・擬態語辞典』
浅野鶴子	1978	『擬音語・擬態語辞典』
阿刀田稔子・星野和子	1993	『擬音語擬態語 使い分け辞典』
飛田良文・浅田秀子	2002	『現代擬音語擬態語用法辞典』
山口仲美	2003	『暮らしのことば擬音・擬態語辞典』
小野正弘	2007	『日本語オノマトペ辞典』
曹金波	2008	『標準日本語 擬声語・擬態語』

上記の 7 つの辞書に収録されているオノマトペをすべて Excel ファイルに入力し、重なっているオノマトペを整理し、異なり語数をリストにした。その結果、5,224 語のオノマトペのリストができあがった。以降、このオノマトペのリストを「辞書オノマトペ」と呼ぶことにする。

「日本語教育語彙表」と「辞書オノマトペ」を照らし合わせながら、「日本語教育語彙表」のリストにある語彙と「辞書オノマトペ」のリストにあるオノマトペが完全一致しているオノマトペをチェックしていき、「オノマトペ」として数えていく。このようにして全部で 335 語<sup>1</sup>のオノマトペが確認できた。

<sup>1</sup> 曹（2008）では、その他の 6 つの辞書には載っていない「いやいや（嫌々）、ながなが（長々）、なく

以下、表 2 に 335 語のオノマトペのリストを示す。

表 2：日本語教育語彙表に収録されているオノマトペ (335 語)<sup>2</sup>

アタフタ	アッサリ	アヤフヤ	イソイソ	イライラ	ウキウキ
ウジャウジャ	ウダウダ	ウツカリ	ウッスラ	ウツトリ	ウツラウツラ
ウトウト	ウロウロ	ウンザリ	ウント	オイオイ	オズオズ
オソルオソル	オツトリ	カサカサ	ガサガサ	カタカタ	ガタガタ
カチカチ	ガチャガチャ	ガツガツ	ガツカリ	ガックリ	ガツチリ
カット	ガミガミ	カラカラ	カラット	ガラリト	カリカリ
ガリガリ	カンカン	ガンガン	ギクシャク	ギザギザ	ギスギス
キチント	ギッシリ	キツチリ	キット	キツパリ	キビキビ
ギョット	ギョット	キョロキョロ	キラキラ	ギラギラ	ギリギリ
グイグイ	グウグウ	クシャクシャ	グシャグシャ	クスクス	クタクタ
グチャグチャ	クッキリ	グツグツ	グッスリ	グツタリ	グット
クヨクヨ	グラグラ	クリクリ	クルクル	グルグル	クルリ
グングン	グント	ゲッソリ	ゲラゲラ	ケロット	ゲンナリ
ゴクゴク	ゴシゴシ	コソコソ	ゴソゴソ	ゴタゴタ	ゴチャゴチャ
コツコツ	ゴツゴツ	コッソリ	ゴツチャ	コッテリ	コトコト
コロコロ	ゴロゴロ	ゴワゴワ	コンガリ	コンコン	コンモリ
サクサク	ザックパラン	ザックリ	サッサト	サット	ザット
サツパリ	サラサラ	ザラザラ	ザワザワ	シクシク	シゲシゲ
シツカリ	シツクリ	ジツクリ	ジット	シットリ	シトシト
シバシバ	ジメジメ	シャキシャキ	シャックリ	シャブシャブ	ジャラジャラ

なく (泣く泣く)、しぶしぶ (渋々)、あつあつ (熱々)」の 5 つがオノマトペとして収録されている。本稿ではその他の 6 冊のオノマトペの辞書には載っていないこの 5 つのオノマトペはオノマトペであるかどうか非常にあいまいであることから、これらを一旦除外したうえで、用例を収集した。

さらに、小野他 (2021) ではオノマトペの研究者であってもオノマトペであるかどうかの判定に揺れが生じることを指摘しているが、本稿で調査するにあたり、「やすやす」を例にあげて説明すると、小野 (2007) および山口 (2003) のオノマトペ辞書の索引には載っているものの、見出し語としては載っていない。山口 (2008) では「むざむざ」の類義語として提示しており、小野 (2007) も同じく、見出し語としての記載はなく、「ものごとが簡単に進むようす」の使い分けを説明するとき「あっさり」「すんなり」「かるがる」「やすやす」「らくらく」をあげて言及している。オノマトペの認定が難しいこのような語もオノマトペであるかどうか判断しにくいいため、今回の調査では除外している。

<sup>2</sup> 語彙素検索で得られたオノマトペは「片仮名、平仮名、漢字など表記が様々である。そのため、日本語教育語彙表における読みの表記を採用し、片仮名表記にしている。「オノマトペ+と」の助詞「と」の表記も日本語教育語彙表の読みの表記に従い、「ト」で統一している。本稿では日本語教育語彙表におけるオノマトペについて言及する際にはすべて片仮名表記に統一する。ただし、先行研究に関しては、それぞれの先行研究の表記に従うことにする。筆者が自身の観点を述べる際には平仮名表記にしている。以下も同様である。

ショボショボ	ショボン	シオンボリ	ジリジリ	ジロジロ	シワシワ
ジワジワ	シント	ジント	シンナリ	シンミリ	スカスカ
スカット	ズキズキ	スクスク	ズケズケ	スゴスゴ	スタスタ
スッカリ	スッキリ	スット	ズット	スッパリ	スッポリ
ズバズバ	ズバリ	スヤスヤ	ズラット	スラリ	ズラリ
スラリト	ズラリト	ズルズル	スレスレ	ズングリ	ズンズン
スンナリ	セッセト	ソックリ	ソット	ゾット	ソロソロ
タツプリ	タラタラ	ダラダラ	ダンダン	チカチカ	チクチク
チクリ	チビチビ	チヤホヤ	チャント	チョイチョイ	チョクチョク
チョコチョコ	チョット	チョップリ	チョロチョロ	チラチラ	チラット
チラホラ	チラリ	チリチリ	チンブンカンブン	ツクツク	ツヤツヤ
ツルツル	ツント	デカデカ	テキパキ	テッキリ	デント
ドウドウ	ドキドキ	ドギマギ	トコトン	ドサクサ	ドシドシ
ドタバタ	ドッサリ	ドット	トットト	ドップリ	トボトボ
トロトロ	ドロドロ	トント	トントン	ドンドン	ドンヨリ
ナミナミ	ニコニコ	ニコリ	ニココリ	ニヤニヤ	ニヤリ
ヌクヌク	ヌルヌル	ネバネバ	ノウノウ	ノソノソ	ノビノビ
ノロノロ	ノンビリ	パクパク	パクリ	バサバサ	パサパサ
バタバタ	パタパタ	パチクリ	パチパチ	ハッキリ	バッサリ
パツタリ	バッチリ	ハット	パット	ハラハラ	バラバラ
パラパラ	パリット	バリバリ	パリパリ	バンバン	パンパン
ピカピカ	ビクビク	ピクピク	ビショビショ	ピタット	ヒタヒタ
ピチピチ	ビチャビチャ	ビックリ	ビッシヨリ	ビッシリ	ヒッソリ
ピツタリ	ヒョイト	ヒョッコリ	ヒョット	ヒラヒラ	フウフウ
フカフカ	ブクブク	フサフサ	フックラ	フット	ブツブツ
フト	フラット	フラフラ	ブラブラ	ブラリト	プリプリ
ブルブル	フワフワ	フワリ	ブンブン	ブンブン	フンワリ
ペコペコ	ベタベタ	ペタペタ	ベッター	ペッター	ヘトヘト
ベトベト	ベラベラ	ペラペラ	ポウット	ポウット	ポカポカ
ホクホク	ボコボコ	ボサボサ	ポタリ	ポチポチ	ポッカリ
ホッソリ	ポッチャリ	ホット	ポツポツ	ホトホト	ホノボノ
ボヤボヤ	ボロボロ	ポロポロ	ホンノリ	ポンポン	ボンヤリ
マチマチ	ムカムカ	ムシャクシャ	ムツツリ	メチャ	メチャクチャ
メチャメチャ	モクモク	モタモタ	モリモリ	モロモロ	ヤキモキ
ヤンワリ	ユックリ	ユッタリ	ヨタヨタ	ヨチヨチ	ヨボヨボ
ヨレヨレ	ヨロヨロ	ワイワイ	ワクワク	ワンワン	

これらのオノマトペを「日本語教育語彙表」の web 検索ページで、一つずつ検索し、それぞれの詳細情報を加えていった。詳細情報には、読み、品詞、語種、出典、アクセント、難易度、重要度、旧日本

語能力試験検定における級（日本語のレベル）、意味、用例、コロケーション情報、類義語情報が含まれる。本稿では、このうちの一部（品詞、難易度、重要度、旧日本語能力試験検定における級）の情報を使用して考察を行っている。

次に、335語のオノマトペを1語ずつ、「まとめて検索『KOTONOHA』<sup>3</sup>（試験公開版）」（以降『KOTONOHA（試）』と略する）で検索し、出現頻度や使用状況を確認する<sup>4</sup>。以下、表3に『KOTONOHA（試）』で検索できるコーパスの情報を示す。なお、本稿では、現代日本語におけるオノマトペの使用実態について調査するため、歴史コーパスのCHJと方言コーパスのCOJADS、多言語母語の日本語学習者横断コーパスI-JASに関しては省くことにする。

表3：『KOTONOHA（試）』の詳細<sup>5</sup>

コーパス名称	対象	検索対象語数
<b>BCCWJ（現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版）</b> （書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがっている。現在、日本語について入手可能な唯一の均衡コーパス）	全てのデータが対象	104,911,460
<b>NWJC（国語研日本語ウェブコーパス 中納言版）</b> （ウェブを母集団として100億語規模を目標として構築した日本語コーパス。ウェブ上の日本語テキストを利用して100億語を超える規模の現代日本語コーパス）	一部のデータが対象	86,277,772
<b>CSJ（日本語話し言葉コーパス）</b> （日本語の自発音声を大量にあつめて多くの研究用情報を付加した話し言葉研究用のデータベースである）	全てのデータが対象	7,576,046
<b>CEJC（日本語日常会話コーパス モニター公開版）</b> （200時間の会話を対象とするコーパス）	全てのデータが対象	1,247,080
<b>SSC（昭和話し言葉コーパス）</b> （1950年代から1970年代にかけて国立国語研究所で録音された音声資料を集め、2021年3月、約44時間分の音声（約53万語）を含むコーパス）	全てのデータが対象	528,589
<b>NUCC（名大会話コーパス）</b> （129会話、合計約100時間の日本語母語話者同士の雑談を文字化したコーパス）	全てのデータが対象	1,131,971
<b>CWPC（現日研・職場談話コーパス）</b> （職場での会話を調査協力者自身に録音してもらい、自然な談話を収録するという方法で得られたデータ、『女性の	全てのデータが対象	186,906

<sup>3</sup> 「まとめて検索『KOTONOHA』」は、複数のコーパスを同時に検索し、その集計結果をグラフ化して視覚的に観察できるサービスである。中納言の中のコーパスを1度にまとめて検索し、その集計結果をユーザに表示することができる。詳細は、国立国語コーパス開発センター公式ホームページ（<https://ccd.ninjal.ac.jp/kotonoha.html>）を参照のこと。表に加えているコーパスの詳細情報はすべて上記のホームページに載っているものである。

<sup>4</sup> 検索して用例を収集する作業は、2021年11月に行われたものである。

<sup>5</sup> 以降、網掛け、下線、太字などは特に注釈がない限り、筆者によるものである。

ことば・職場編』『男性のことば・職場編』で得た談話の文字化テキストを元に作成されたコーパス)		
CHJ (日本語歴史コーパス) (デジタル時代における日本語史研究の基礎資料として開発を進めているコーパス)	全てのデータが対象	17,604,526
COJADS (日本語諸方言コーパス) (日本各地の方言の談話音声を大量に集めた、日本で初めての諸方言コーパス)	全てのデータが対象	769,394
I-JAS (多言語母語の日本語学習者横断コーパス) (日本語学習者の話し言葉・書き言葉を大量に収集して電子化した言語資料で、I-JAS 中納言 (検索システム) を備えたコーパス)	全てのデータが対象	3,667,760

以下の表 4 に示しているように、「ごちゃごちゃ」というオノマトペは、副詞 (例：ごちゃごちゃ説明を加える) として使われるものと、形状詞 (例：ごちゃごちゃだ) として使われるものがある。

表 4：オノマトペ集計方法の一例

	BCCWJ	NWJC	CSJ	CEJC	SSC	NUCC	CWPC	合計
ごちゃごちゃ① 副詞	260	293	53	5	3	7	1	636
ごちゃごちゃ② 形状詞-一般	51	58	1	3	2	0	0	126
ごちゃごちゃ 全体	311	351	54	8	5	7	1	762

本稿で扱っているオノマトペ 335 語の中には、このように 2 つ以上の使い方で別々に収録されているものが全部で 14 語<sup>6</sup>ある。集計時には別々に集計しているが、4. 節で数量的考察を行う際には、数量的調査をすることに重点をおくため、①と②を合わせた総出現数をカウントすることにする。

### 3. 先行研究

オノマトペの統語的特徴について、田守・スコウラップ (1999: 47-64) では、日本語のオノマトペは統語的に「副詞、動詞、名詞、形容詞／形容動詞」として働くことができると述べている。以下、一部の用例を抜粋して示す。なお紙幅の関係上、前後の部分を一部省略した形で用例を示している。

#### (1) 副詞用法：

- (1-a) (様態副詞) 男たちの頭に巻かれた手拭やタオルの白さだけがくっきりと見える。
- (1-b) (結果副詞) (前略) 夕立に遭い、頭から足の先までびしょびしょに濡れた。
- (1-c) (程度副詞) 父はめっきり体力が衰えてきたと言いながらも、(後略)
- (1-d) (頻度副詞) (前略) 喫茶店が出来たので、ちょいちょい行くことにしている。

<sup>6</sup> 「オイオイ、オズオズト、ガタガタ、カラカラ、ゴチャゴチャ、サラサラ、ソックリ、チラリト、ピツタリ、ブツブツ、フラフラ、メチャクチャ」計 12 語のうち、「オイオイ、オズオズ、チラリ」の 3 語は、形状詞としての用例数は 0 であった。

(2) 動詞用法：

- (2-a) (する動詞) ほっとする だらんとする どたばたする うきうきする うっとりする  
(2-b) (一つく動詞) べとつく、がきつく、いらつく、にやつく  
(2-c) (その他の派生動詞) きらめく、よろける、ぐずる

(3) 名詞用法

- (3-a) (単独の名詞) こんこんが出たら大変、ひらひらのついたワンピース  
(3-b) (複合名詞) のろのろ運転、びしょ濡れ、がぶ飲み、びっくり箱、がり勉

(4) 形容詞／形容動詞<sup>7</sup>用法

- (4-a) (形容動詞) 靴がびかびかだ  
(4-b) (形容詞：語基に接頭辞、接尾辞を付けた形) けばけばしい、ほろ苦い

オノマトペの形態的特徴については数多くの研究があるが、田守・スコウラップ (1999: 19) で述べられているように、基本形<sup>8</sup>が1モーラ<sup>9</sup>のものとは2モーラのものがあるという共通認識がなされている。本稿では、吉永 (2019) にまとめられている分類表を取り上げる。吉永 (2019) では、基本部分が1音節のものとは2音節のものに分けて以下のように提示している。

(5) 基本形が1モーラ

- |         |                      |
|---------|----------------------|
| ①X型：    | ふ(と)                 |
| ②X一型：   | サー、ザー、ぼー、じー、ぬー       |
| ③X一X一型： | ザーザー、フーフー、スースー       |
| ④Xン型：   | ボン、バン、しゅん、きゅん、しゃん    |
| ⑤XンXン型： | ドンドン、ガンガン、ずんずん、るんるん  |
| ⑥X一ン型：  | カーン、ゴーン、がーん、つーん      |
| ⑦Xッ型：   | ボッ、ジュッ、ほっ、はっ、ぞっ      |
| ⑧XッX型：  | キャッキヤ、チッチ、かっか、とっと(と) |
| ⑨X一ッ型：  | シューッ、ジャーッ、すーっ、ぼーっ    |

<sup>7</sup> 田守・スコウラップ (1999: 63) は形容動詞としているが、形態論的な基準からみれば、形容動詞であれば名詞を修飾する際には「な」が現れる必要がある。これについて田守・スコウラップ (1999: 47) は「幸せだ」が「幸せに暮らす／幸せの日々／幸せだ」のように、「結果副詞として用いられる2モーラ反復形のオノマトペは形態的にも、機能的にも形容動詞と類似しているの、形容動詞とみなせるかもしれない」と述べている。

<sup>8</sup> 基本形とは、(5) と (6) における X および XY の部分を指す。これは後述するように音声ではなく表記によって規定するものである。そして X 型あるいは XY 型は、反復形を作る形や、特殊音の長音、撥音、促音、あるいは語尾を付加する形で派生形を作っていく。

<sup>9</sup> オノマトペの音韻形態に言及しているものは、研究者によって「音節」「拍」「モーラ」という用語を使用している。分類された形態的特徴およびオノマトペの用例を確認したところ、この三つの用語はほぼ同じ意味で使われていることが分かった。したがって「音節」「拍」「モーラ」の違いやその定義をここで深く問題にすることはせず、本稿では、田守・スコウラップ (1999: 19) の「モーラ」という用語に統一することにする。なお、吉永 (2019) では、音節とモーラの両方の用語を用い、基本形を基本部分と呼んでいる。

(6) 基本形が2モーラ

- ⑩XY型： カチャ、ぐい、そよ、がば、ぴた
- ⑪XYリ型： ガタリ、バタリ、ガブリ、ペたり、どきり、びくり
- ⑫XYッ型： ガチャッ、ボキッ、バキッ、ポタッ、ぐらっ、よろっ、
- ⑬XYン型： コツン、ポキン、パリン、だらん、きよとん、ずきん
- ⑭XYー型： プシュー、ぼやー、じとー、ふらー
- ⑮XYXY型： バリバリ、ゴロゴロ、ガタガタ、いらいら、めきめき
- ⑯XッYリ型： バッター、どつきり、がっかり、もっちり、ぽっちやり
- ⑰XッYン型： ゴックン、ポッチャン、カックン、ポットン、どつきん
- ⑱XンYリ型： しょんぼり、ぼんやり、うんざり、にんまり、どんより
- ⑲XYンXYン型： チャポンチャポン、べろんべろん、ふるんふるん
- ⑳XYZY型： ペチャクチャ、うろちょろ、てきばき、ちやほや

(上記のほかに、促音、長音、撥音で強調したもの、それらを反復したものなどへの変形が可能であり、話者の主観や状況によってかなり自由に表現できると思われる。)

(吉永 2019: 75-76 より抜粋)

#### 4. 考察

##### 4.1. 日本語教育語彙表におけるオノマトペの特徴

この節では、4.1.1.でオノマトペの形態的特徴について、4.1.2.でオノマトペの品詞について、4.1.3.でオノマトペが日本語教育において扱われるレベルについて、4.1.4.でオノマトペの重要度について順にみていくことにする。

##### 4.1.1. オノマトペの形態的特徴

ここでは、まずオノマトペの形態的特徴をみていくことにする。表 5 に示すように、本稿で扱っているオノマトペは全部で 20 の分類パターンをみることができる。

表 5：オノマトペの形態的特徴

基本形が1モーラのもの			
1	Xッ	19	チョット、ズット、キッ、パット、ジッ、ホッ、サッ、ソッ、スッ、グッ、ヒョッ、フッ、ギョッ、ハッ、ザッ、ドッ、カッ、ゾッ、ギョッ
2	XンXン	14	ドンドン、ダンダン、バンバン、トントン、グングン、ポンポン、ワンワン、プンプン、ブンブン、ガンガン、コンコン、ズンズン、カンカン、パンパン
3	Xン	8	チャント、ウント、ツント、グント、デント、ジント、シント、トント
4	XッX	3	サッサト、セッセト、トットト
5	X	1	フト
基本形が2モーラのもの			
6	XYXY	171	ソロソロ、ドキドキ、シバシバ、ニコニコ、ワクワク、イライラ、

			ドウドウ、バラバラ、フワフワ、グルグル、メチャメチャ、ボロボロ、ギリギリ、ゴロゴロ、ダラダラ、クルクル、バタバタ、ニヤニヤ、バリバリ、コロコロなど
7	X ッ Y リ	52	シッカリ、ビックリ、ハッキリ、ユックリ、タツプリ、スツカリ、ピツタリ、スツキリ、サツパリ、ジツクリ、バツチリ、ユツタリ、ソツクリ、コツソリ、アツサリ、シツトリ、ガツカリ、ウツカリ、チョツピリ、キツチリなど
8	X ン Y リ	15	ノンビリ、ボンヤリ、フンワリ、ウンザリ、スンナリ、ホンノリ、シンナリ、コンガリ、ドンヨリ、ションボリ、ヤンワリ、シンミリ、コンモリ、ズングリ、ゲンナリ
9	XY リ	15	ズバリ、ニヤリ、チラリ、パクリ、ズラリ、ズラリト、クルリ、ブラリト、ガラリト、フワリ、スラリ、スラリト、ニコリ、チクリ、ポタリ
10	XYZY	14	メチャクチャ、チラホラ、ドタバタ、アヤフヤ、テキパキ、アタフタ、ドサクサ、チャホヤ、ドギマギ、ヤキモキ、ギクシャク、ムシヤクシヤ ツクヅク、ホノボノ (2例はXY型であるが連濁になっているもの)
11	XY ッ	10	ピタット、スカット、パリット、カラット、ズラット、フラット、ポウット、ケロット
12	XY ン	2	キチント、ショボン
13	X ッ Y ラ	2	ウッスラ、フックラ
14	XY	2	メチャ、ヒョイ
15	XYZXYZ	2	オソルオソル、ウツラウツラ
16	XYZ リ	1	パチクリ
17	X ッ Y	1	ゴツチャ
18	XYX ン	1	トコトン
19	X ッ YZW ン	1	ザックバラン
20	X ン Y ン Z ン Y ン	1	チンブンカンブン

(基本形が1モーラ,2モーラのオノマトペに分け、さらに用例が多い順に示している。)

日本語教育語彙におけるオノマトペは重ね型のXYXY型が最も多く、全体の約51%を占めている。X ッ Y リ型とX ン Y リ型が合わせて67語で全体の約20%を占めている。1モーラを基本形にするオノマトペは、X ッ、X ン X ン、X ン、X ッ X、X の5つの形態があり、全部で45語、全体の約13%を占める。2モーラを基本形にするXY型は全部で290語、全体の約87%を占めている。2モーラを基本形にするオノマトペのほうが多用されており、それが日本語教育語彙表にも影響を与えていることが分かる。

基本形が1モーラのX型に関しては、吉永(2019)で示している「X一型、X-X一型、X一ン型、X一ッ型」の4つは確認できなかった。これらのオノマトペはX型の基本形に特殊音の長音が付いた形からさらに特殊音の促音や撥音が後続した形である。オノマトペはこのように特殊音を付加する形や基本形を反復する形で新しいオノマトペを作っていくため、その数は想定した数より多くなると思われる。日本語教育語彙表には吉永(2019)と同じ長音記号が付加された形のオノマトペの例はないが、XY型に分類された「ぼうっと、ぼうっと、ふうふう、のうのう、ぐうぐう(この5語に関しては、本稿では

表記を基準に分類したため XY 型に振り分けている)」は、「ぼーっと、ぽーっと、ふーふー、のーのー、ぐーぐー」のような表記でも使われることがある。

基本形が 2 モーラの XY 型に関しては、吉永 (2019) で示している「XY一型、X ッ Y ン型、XY ン XY ン型」の 3 つは確認できなかった。そして、吉永 (2019) には載っていない「XYZXYZ、XYZ リ、X ッ Y、XYX ン、X ッ YZW ン、X ッ Y ラ、X ン Y ン Z ン Y ン」が確認できた。「ふっくら」のように「ら」が後続して接尾辞のように使われるオノマトペは、上記の 2 例以外にもオノマトペの辞書には「ちよっくら、のっぺら、ひよっくら」などがあり、さらにその派生形の「えっちらおっちら」のようなものもあるため別項目をたてた。吉永 (2019) にある「XY ン (だらん、ぱかん、きよとんなど)」はオノマトペを扱う際によく使用される形態であるが、日本語教育語彙表においては「きちん、しょぼん」の 2 語のみであった。最後の「ちんぷんかんぷん」は、XYZY 型のそれぞれに撥音が付加された形である。

#### 4.1.2. オノマトペの品詞

ここでは、オノマトペがどのような品詞として使われているのかについてみていくことにする。なお、先行研究で示しているように、オノマトペは様々な文成分として用いられている。日本語教育語彙表には「品詞 1」と「品詞 2」のタグがついている。「品詞 1」と「品詞 2」に同じ品詞のタグが付いている場合にはその品詞として数え、別の品詞のタグが付いている場合にはその両方の品詞に属するものとしてカウントした。そのため合計は 335 語を大きく上回る数になっている。以下、詳細を表 6 に示す。

表 6：調査対象にしたオノマトペの品詞

文成分	数	オノマトペ
副詞	306	チョット、ズット、キット、メチャ、ドンドン、スッカリ、ソロソロ、ダンダン、パット、フトなど
動詞 3 類 <sup>10</sup>	124	シッカリ、チャント、ハッキリ、ユックリ、タツプリ、キチント、ピツタリ、スッキリ、ジット、ドキドキなど
名詞	34	ビックリ、イライラ、フワフワ、メチャメチャ、ボロボロ、ギリギリ、トコトン、パクリ、シャブシャブ、ワンワンなど
ナ形容詞	20	ソックリ、バラバラ、ピカピカ、ガタガタ、アヤフヤ、ガチャガチャ、ボコボコ、スレスレ、カチカチ、ヒタヒタなど
感動詞	1	オイオイ

(用例数が 10 位より上のは用例が多い順に 10 位までのオノマトペを示す)

表 6 から分かるように、副詞のタグがついているものが最も多く、306 語で全体の約 91%が副詞としての用法をもっていることが分かる。次いで「動詞 3 類 (スル動詞)」のタグがついているものが 124 語、全体の約 37%を占める。なお、124 語のうち、121 語のオノマトペは副詞としても使われるものであり、「オノマトペ+する」の形で用いられるほとんどのオノマトペは副詞としても用いることができることがわかる。オノマトペの習得は副詞的用法が主であると思われるが、「オノマトペ+する」の形で動詞として使われるものも全体の約 37%を占めていることから、重視すべきであると考えられる。

<sup>10</sup> ここでいう「動詞 3 類」は「オノマトペ+する」の形で使われるものである。「オノマトペ+する」は動詞として使われる際には「する／している／していた／した」などの形で用いられている。「オノマトペ+する (スル動詞とも呼ぶ)」に関しては、伊東 (2015) が「オノマトペ+する」の語彙的意味とアスペクト性の研究で詳しく考察している。

日本語教育語彙表の品詞 2 には、「形状詞」があるが、今回研究対象にしている 335 語のうち、31 語のオノマトペに形状詞のタグがついている。これら 31 語の形状詞は品詞 1 において、ナ形容詞、スル動詞、名詞などのタグがついている。詳細は表 7 に示す。

表 7：形状詞のタグがついたオノマトペ 31 語 (50 音順)

オノマトペ	品詞 1	品詞 2	オノマトペ	品詞 1	品詞 2
アヤフヤ	ナ形容詞	形状詞	シワシワ	名詞	形状詞
ガサガサ	動詞 3 類	形状詞	スカスカ	ナ形容詞	形状詞
ガタガタ	動詞 3 類	形状詞	スレスレ	ナ形容詞	形状詞
カチカチ	ナ形容詞	形状詞	ソックリ	ナ形容詞	形状詞
カラカラ	名詞	形状詞	チンプンカンプン	名詞	形状詞
カリカリ	動詞 3 類	形状詞	バラバラ	ナ形容詞	形状詞
ガリガリ	ナ形容詞	形状詞	ビショビショ	ナ形容詞	形状詞
ギザギザ	名詞	形状詞	ピッタリ	動詞 3 類	形状詞
グシャグシャ	ナ形容詞	形状詞	フラフラ	動詞 3 類	形状詞
クタクタ	名詞	形状詞	ぺこぺこ	動詞 3 類	形状詞
グチャグチャ	名詞	形状詞	へトへト	ナ形容詞	形状詞
ゴチャゴチャ	動詞 3 類	形状詞	ボコボコ	ナ形容詞	形状詞
ゴツチャ	ナ形容詞	形状詞	ボロボロ	名詞	形状詞
ザックバラン	ナ形容詞	形状詞	マチマチ	名詞	形状詞
サラサラ	動詞 3 類	形状詞	メチャクチャ	名詞	形状詞
			ヨレヨレ	ナ形容詞	形状詞

「ばらばら」は、(7) ~ (9) に示しているように、「ばらばらになる／ばらばらの状態／ばらばらだ」、「しわしわ」は、

(10) ~ (12) に示しているように、「しわしわになる／しわしわが良い感じ／しわしわの首」の用例が確認できる。しかし、「\*ばらばらする」や「\*しわしわする」のようなスル動詞の形は用いることができない。それに比べて「ぺこぺこ」は、(13) ~ (16) で示しているように、上記の用法以外にスル動詞としても用いることができる。スル動詞化できるオノマトペとできないタイプのオノマトペがあり、日本語学習にとってはその分別が非常に難しい。さらに、「ぺこぺこ」がお辞儀をする動作を表す場合は「ぺこぺこする」を用いることができるが、「お腹がぺこぺこ」の場合は「\*お腹がぺこぺこする」は使えない。このようにオノマトペのスル動詞化は、オノマトペの多義的用法に影響されることもある。なお、本稿ではオノマトペの使用頻度に注目しているため、多義的用法については深く触れないことにする。

(7) おはぎな感じ (笑)。大福と違ってかぶりつけないから、結局バラバラになっちゃってさあ

(OY03\_00192 1570 990)

(8) 芸術を無秩序なばらばらの状態にし、その中から、見られることを目的とした少数の芸術 (後略)

(LBI7\_00011 17570 11510)

(9) 意見ばらばらです。振り付けもばらばらです。

(OY14\_08334 2650 1550)

- (10) 昼間は暑さ？で葉がしわしわになってしまい夕方に水をたくさん与えると夜には元気になります。  
(OC12\_06413 710 490)
- (11) 今年は綺麗・たくさん咲いた！花びらのしわしわが良い感じだ・・・  
(OY05\_06583 360 230)
- (12) 水をのみこむごとに、やせてしわしわの首のあたりがうごいていた。  
(LBen\_00008 73650 45550)
- (13) 巡査にとがめられると実にペコペコとお辞儀をする。  
(LBf2\_00035 85030 56670)
- (14) 丸々七時間かかったことになる。思わず床にへたりこんでしまった。腹がペコペコである。  
(LB14\_00041 73740 47440)
- (15) Cって書いてあるので温度計だよね？それにしても大きくてペコペコの作り。  
(OY15\_00243 3060 1920)
- (16) すごい剣幕で怒りだしたのです。サンタさんはペコペコしながら、「すみませんでした」と平謝り。  
(PB27\_00223 16510 10320)

#### 4.1.3. 日本語教育においてオノマトペが扱われるレベル

ここから、日本語教育語彙表におけるオノマトペが日本語教育においてそれぞれのレベル<sup>11</sup>で扱われているのかについてみていくことにする。以下、表 8 に詳細を示す。

表 8：オノマトペ集計方法の一例

レベル	数 (語)	オノマトペの例
初級後半	2	ズット、チョット
中級前半	19	シツカリ、チャント、キット、ビックリ、ハッキリ、ユックリ、ドンドン、キチント、スツカリ、ソロソロ、ダンダン、ドキドキ、ソツクリ、イライラ、キラキラ、シャブシャブ、グッスリ、ペラペラ、カラカラ
中級後半	119	タツプリ、ピツタリ、スツキリ、パツト、ジツト、フト、ホツト、ニコニコ、ノンビリ、サツト、サツパリ、ワクワク、ジツクリ、メチャクチャ、バツチリ、ユツタリ、ソツト、ソツクリ、コツソリ、アツサリなど
上級前半	147	メチャ、シバシバ、スツト、シツトリ、ダラダラ、ニツコリ、バタバタ、ニヤニヤ、トコトン、バリバリ、ズバリ、サラサラ、ツクツク、ウンザリ、ウツトリ、ガツチリ、ニヤリ、サクサク、ウッスラ、パクリなど
上級後半	50	ヒョツト、ザツクリ、シツクリ、ボチボチ、チョコチョコ、ホンノリ、カット、ツント、チラホラ、ドツプリ、トロトロ、トツトト、デント、ツヤツヤ、シンナリ、ジリジリ、ホクホク、チョイチョイ、ジント、オイオイなど

(用例の多いレベルについては 20 語まで、用例数が上位のものから順に示したものである)

表 8 に詳細を示しているが、先述したように、2 つ以上の意味用法があるものがそれぞれ集計された

<sup>11</sup> ここでいうレベルは、「経験豊富な日本語教師の主観判定に基づく 6 段階の難易度である」という記述がある。さらに、レベルの詳細については、「日本語のレベルは 6 段階です。初級前半、初級後半、中級前半、中級後半、上級前半、上級後半です。」と記述されている。詳細は <http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV/> を参照のこと。

ものに関しては、2つのレベルにまたがっているため、両方のレベルにおいてそれぞれカウントしている。

335語のオノマトペのうち、初級後半<sup>12</sup>で確認できたのは「ずっと」「ちょっと」の2語のみである。この2語は「ちょっと休みましょう (みんなの日本語初級 I -6 課)」「ずっと寒いです (みんなの日本語初級 I -12 課)」などのように一般語彙としての認識が高く、オノマトペであるという認識が低いものである。これらは、形容詞を導入する際に程度副詞として同時に提示されて勉強するものであるため、日本語学習者は比較的早い段階で触れることができるオノマトペである。

中級前半においても、オノマトペに触れる機会はまだ少なく、ここで確認できたオノマトペは19語である。用例数が上位にある「ちゃんと、きっと、きちんと」は、上述した「ちょっと、ずっと」と同じように、「と」を必須とするものであり、比較的早い段階で副詞として学習する語彙である。

中級後半から急激に119語に増え、上級前半においては147語のオノマトペに触れることになる。中上級になるにつれて、勉強する語彙量が増えるため、オノマトペの数も増えていくことになる。このように初級の段階においてオノマトペの学習はほぼ行われず、中級の後半から上級の前半にかけて急激に触れることが多くなることで語彙学習の負担になることが容易に想像できる。

上級後半においてオノマトペの数が50語と少なくなっている。上級になるにつれて、ライティング、ニュース、書評など日本語の授業で勉強するトピックも細かくなり、人の気持ちや様子、物事の様子を表すオノマトペの出現率も低くなっているのではないかと考えられる。

#### 4.1.4. オノマトペの重要度

ここでは、本稿で研究対象にしているオノマトペの日本語教育語彙表における重要度についてみていく。日本語教育語彙表では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」での出現頻度を統計的に処理し、5段階のスケールとして表示しているが、☆の数が多いほど、重要な語彙である。日本語教育語彙表におけるオノマトペの重要度表記は表9のようになっている。

表9: オノマトペの語彙の重要度

レベル	オノマトペの数	オノマトペの例
☆☆☆	1	ズット
☆☆	10	チャント、ハッキリ、ユックリ、ドンドン、タツプリ、キチント、スツカリ、ピツタリ、ソロソロ、ダンダン
☆	201	ビックリ、メチャ、スツキリ、パツト、ジツト、フト、ドキドキ、ホツト、ニコニコ、ノンビリなど
記載なし	123	チョツト、シツカリ、キツト、シバシバ、イライラ、ヒョツト、ニヤニヤ、サラサラ、ツクヅク、ウツトリなど

(ここでは、重要度順に示し、用例数が多い順に並べている。)

重要度が最も高いものは「ずっと」の1語のみである。重要度が星2つのものは10語、星1つのものが201語で全体的にオノマトペは重要度がほかの語彙に比べて高くないことが分かる。

<sup>12</sup> 日本語教育語彙表では「初級後半」というタグがついているが、『みんなの日本語』に関しては初級 I の教科で扱われている。

(17) 5月中旬にディーラーにて購入したステッカー。ずっと放置していましたが先日ようやく貼り付けることにしました。

(OY15\_02339 330 180)

(18) 家でこんにゃくを作っていたことがある。なぜかスーパーのよりずっとおいしい。

(PB25\_00342 3060 1950)

「ずっと」は、副詞として用いられる用例のみであるが、ほとんどの場合は上記の例(17)のような用法で使われている。BCCWJ(書き言葉均衡コーパス)から100例をサンプルとして確認したところ、(18)のような程度副詞として使われるものは100例中、14例であった。CEJC(日本語日常会話コーパス)でも同じく、100例をサンプルとして確認したところ、すべて

(17)のような用法で、(18)のような用法は見つからなかった。サンプル数が少ないため、明確な結論には至らないが、全体的に「ずっと」は情態副詞として用いられることが多く、程度副詞として使われるものは情態副詞に比べて少ないということが言える。そして、書き言葉コーパスでは約14%の頻度で使用されていた「ずっと暖かい、ずっときれい」のような程度副詞としての「ずっと」は、会話コーパスでの使用頻度はかなり低いことが分かった。

重要度が星2つのオノマトペ10語をみると、「スッカリ、ソロソロ、タツプリ、ダンダン、ドンドン」の5語は副詞としての用法が主で、スル動詞化できないが、その他の7語「チャント、ハッキリ、ユックリ、キチント、ピッタリ」は、副詞の用法以外に、スル動詞化できるオノマトペである。

(19) (前略) お店にはスペックも書いてあるはずですから欲しいPCがちゃんと見つかるはずですよ。

(OC02\_07447 2140 1230)

(20) 春から初夏(4~7月)に、黒子でよいですから、ちゃんとした体型の物をお求め下さい。

(OC12\_03134 2670 1700)

(21) 街を流れている人間や、建物の形がまだはっきりと見えている。

(OB2X\_00182 1080 740)

(22) テリトリーを誇示することによって、お互いの立場の違いをはっきりさせることができる。

(LBg3\_00024 45200 27200)

(23) 水滴はゆっくりと大きくなり、そしてある大きさになると、突然ポタリと落ちます。

(LBb4\_00005 9210 5920)

(24) だんなさまは二時間バスケの練習に。私はほんとはお風呂に入ってゆっくりしたかったんだけど・・・

(OY14\_03119 5070 3240)

(25) ナリケンが、チョークをきつくにぎりしめて、そろそろヒステリーをおこしかけている。

(LBdn\_00024 30290 19120)

(26) 大西洋は海底の拡大によってその面積がだんだん広がっている。

(OT23\_00021 3710 2410)

(27) そういうかたちで、日本の職人仕事が先端技術と手をつないで、どんどん世界に出ていく。

(OB5X\_00134 76030 49760)

(19)~(24)に示しているように、これらのオノマトペは副詞の用法のもの、およびスル動詞化したものがある。「する」を伴って使われるオノマトペは、「ゆっくりする/はっきりさせる」のように動詞として使われる用法と、「ちゃんとした体形」のように「した」の形で名詞を修飾するものがある。「だ

「だんだん／どんだん」は (25) ~ (27) の「そろそろおこしかけている」「だんだん広がる」「どんだん出ていく」のように、副詞としてのみ使われるオノマトペである。

#### 4.2 『KOTONOHA (試)』における出現頻度

この節では、『KOTONOHA (試)』を使って7つのコーパスから335のオノマトペの用例を取り出した結果について見ていく。4.2.1でオノマトペの使用頻度とそれぞれのコーパスの特徴による違いについて、4.2.2では使用頻度が高いオノマトペと低いオノマトペについてみていくことにする。

##### 4.2.1. オノマトペの使用頻度とコーパスによる違い

『KOTONOHA (試)』のまとめ検索を使って、335語のオノマトペの用例を検索したところ、以下の表10に示したコーパスから543,915例が得られた。

表10: 『KOTONOHA (試)』全体における出現頻度 (延べ語数)

コーパス名称	検索対象語数	用例数	割合
BCCWJ (現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版)	104,911,460	<u>235,964</u>	0.22%
NWJC (国語研日本語ウェブコーパス中納言版)	86,277,772	<u>263,036</u>	0.30%
CSJ (日本語話し言葉コーパス)	7,576,046	<u>26,529</u>	0.35%
CEJC (日本語日常会話コーパスモニター公開版)	1,247,080	8,639	<u>0.69%</u>
SSC (昭和話し言葉コーパス)	528,589	2,074	0.39%
NUCC (名大会話コーパス)	1,131,971	6,591	<u>0.58%</u>
CWPC (現日研・職場談話コーパス)	186,906	1,082	<u>0.58%</u>
合計数	223,901,504	543,915	0.22%

表10に示すように、用例数が最も多いのはNWJCの263,036例であり、最も少ないのはCWPCの1,082例であるが、検索対象語数との割合をみると、最も使用頻度が高いのはCEJC (日本語日常会話コーパス)の約0.7%である。次いで、NUCC (名大会話コーパス)・CWPC (現日研・職場談話コーパス)はそれぞれ約0.6%であることが分かった。用例数が多いコーパスの属性からみると、会話のほうがオノマトペをより多く使用していることが分かる。

##### 4.2.2. 使用頻度の高いオノマトペと低いオノマトペ

ここでは、今回対象にしているオノマトペの『KOTONOHA (試)』での使用頻度についてみていく。以下、詳細を表11に示す。

表11: 『KOTONOHA (試)』における個々のオノマトペの用例数 (1-50位までの提示)

	オノマトペ	用例数	検索対象語との割合	全用例数との割合		オノマトペ	用例数	検索対象語との割合	全用例数との割合
1	チョット	99,775	0.045%	18.344%	26	サット	3,614	0.002%	0.664%
2	ズット	25,316	0.011%	4.654%	27	サツパリ	3,431	0.002%	0.631%
3	シッカリ	22,252	0.010%	4.091%	28	ワクワク	3,412	0.002%	0.627%

4	チャント	20,828	0.009%	3.829%	29	ジックリ	3,357	0.001%	0.617%
5	キット	17,212	0.008%	3.164%	30	メチャクチャ	3,269	0.001%	0.601%
6	ビックリ	15,212	0.007%	2.797%	31	バッチリ	3,159	0.001%	0.581%
7	ハッキリ	15,048	0.007%	2.767%	32	ユッタリ	3,073	0.001%	0.565%
8	ユックリ	14,007	0.006%	2.575%	33	ソット	3,064	0.001%	0.563%
9	メチャ	11,534	0.005%	2.121%	34	ソックリ	3,028	0.001%	0.557%
10	ドンドン	10,699	0.005%	1.967%	35	コッソリ	2,950	0.001%	0.542%
11	タップリ	9,659	0.004%	1.776%	36	イライラ	2,931	0.001%	0.539%
12	キチント	8,706	0.004%	1.601%	37	アッサリ	2,928	0.001%	0.538%
13	スッカリ	7,700	0.003%	1.416%	38	ドウドウ	2,903	0.001%	0.534%
14	ピツタリ	7,355	0.003%	1.352%	39	スット	2,576	0.001%	0.474%
15	ソロソロ	6,793	0.003%	1.249%	40	グット	2,492	0.001%	0.458%
16	ダンダン	6,455	0.003%	1.187%	41	ヒョット	2,409	0.001%	0.443%
17	スッキリ	6,194	0.003%	1.139%	42	ウント	2,392	0.001%	0.440%
18	パット	5,692	0.003%	1.046%	43	バラバラ	2,337	0.001%	0.430%
19	ジット	5,073	0.002%	0.933%	44	チラット	2,303	0.001%	0.423%
20	フト	4,840	0.002%	0.890%	45	サッサト	2,274	0.001%	0.418%
21	ドキドキ	4,341	0.002%	0.798%	46	フワフワ	2,151	0.001%	0.395%
22	シバシバ	4,306	0.002%	0.792%	47	シットリ	2,111	0.001%	0.388%
23	ホット	3,786	0.002%	0.696%	48	ガツカリ	2,018	0.001%	0.371%
24	ニコニコ	3,758	0.002%	0.691%	49	ウツカリ	2,011	0.001%	0.370%
25	ノンビリ	3,736	0.002%	0.687%	50	ボンヤリ	1,985	0.001%	0.365%

まず、使用頻度からみると、用例数が最も多い「ちょっと」は99,775例で、オノマトペの全用例数の約18%を占めている。次いで多く表れているのが「ずっと」で全用例数の約4%を占めている。「しっかり、ちゃんと、きつと、びっくり、はっきり、ゆっくり」がそれぞれ全用例数の約3%を占めている。このように出現頻度が上位のものは、「びっくり」を除いて、相互無依存<sup>13</sup>のオノマトペがほとんどであり、様々な動詞を修飾することができることから出現数も多くなっているのではないかと考えられる。

次に、音韻形態的特徴からみると、50位までのオノマトペのうち、20語が「はっきり」や「のんびり」のように「リ」語尾で終わるオノマトペである。次に、「ちょっと」「ずっと」「きつと」「ぱつと」のように、オノマトペ助詞「ト」を必須とするオノマトペは16語である。表5で示した形態的特徴においてオノマトペの数が最も多かったのは重ね形のXYXY型であった。しかし、表11から分かるように、使用頻度が多い順に50位に入っているオノマトペのうち、XYXY型は、「そろそろ、どきどき、しばしば、にこにこ、わくわく、いらいら、どうどう、ばらばら、ふわふわ、ぼんやり」の10語で、用例の数においても、15位になってやっと「そろそろ」を確認することができる。

以上、用例数が上位のオノマトペを見てきたが、次は出現率が低いオノマトペについてみていくこと

<sup>13</sup> 筧(2001:29)では、オノマトペとそれが修飾する動詞の間の依存関係について相互依存(にっこりほほえむ)、一方依存(にっこりわらう)、相互無依存(ゆっくりあるく)の対立関係があると述べている。相互無依存というのは、お互いがより広範囲な他との結合を許すことであると説明している。

にする。以下、

表 12 に出現率が低いオノマトペを順に 30 位まで示す。

表 12：使用頻度が低いオノマトペ（低い順 30 位）

オノマトペ	用例数	オノマトペ	用例数	オノマトペ	用例数
ギスギス	22	ノウノウ	56	タラタラ	96
グウグウ	22	ギザギザ	70	ウツラウツラ	97
ぺったり	31	シトシト	72	パチクリ	100
ポタリ	40	グシャグシャ	77	ヨタヨタ	101
ズケズケ	45	ゴクゴク	78	ジャラジャラ	101
ピチャピチャ	47	カリカリ	81	ムシャクシャ	103
ズバズバ	48	ガリガリ	91	ガミガミ	104
ボヤボヤ	48	グツグツ	91	チリチリ	107
ノソノソ	54	スゴスゴ	94	ギラギラ	113
ヨボヨボ	55	パツタリ	95	ショボショボ	117

まず、使用頻度からみると、最も少ないのが「ぎすぎす」と「ぐうぐう」の 2 語で、使われた用例はそれぞれ 22 例である。「ぎすぎす」の用例を確認したところ、(28) のようにスル動詞化して用いられており、副詞として使われている用例は (29) のような使い方で 1 例のみであった。「ぎすぎす」と共起するものは、主に人間関係や雰囲気を表す言葉であり、それ以外のものは見当たらなかった。「ぐうぐう」に関しても、(30) のように、主に「寝る／眠っている」を修飾する用例である。「ぺったり」は、(31) のように、主に「くつつく／張り付く」と共に使われている。このように、オノマトペと修飾する動詞がコロケーション的に強い結びつきがあるオノマトペは使用される場面が限られてしまうため、必然的に用例数も少なくなっているのではないかと考えられる。

(28) 彼女たちの頭の中には、ギスギスした男女関係しかインプットされていないのではないかと。

(LBk9\_00147 41620 26030)

(29) 人恋しくなる年の瀬、多忙でぎすぎすとささくれだった時間をそのまま自宅へ持ち帰って、(後略)

(LBn9\_00169 33490 21370)

(30) 寺子屋の子供たちは、グウグウ眠っている。

(LBa9\_00099 6000 3710)

(31) 前髪のボリュームを少なくして、おでこにぺったりくつつくくらいにしたいのですが、(後略)

(OC09\_07979 200 120)

次に、音韻形態的特徴からみると、用例数が少ないオノマトペ 30 語のうち、25 語が XYXY 型のオノマトペである。これは、先述した使用頻度が高いオノマトペの音韻形態的特徴と違い、XYXY 型の重ね形がほとんどを占めていることがわかる。それから、XっYり型が 2 語、XYり型、XYZり型、XYZXYZ型がそれぞれ 1 語ずつである。「ぼたり」はほとんど (32) のように、「落ちる」あるいは「落とす」という動詞を修飾する形で用いられている。「ぱちくり」は、(33) のように「ぱちくりする／させる」の形で使われているが、修飾する名詞は「目」のみである。「うつらうつら」は (34) と (35) のように、副詞の用法と、スル動詞化した用法の両方があるが、どちらも「眠る」に関わるものであった。このよ

うに使用頻度が低いオノマトペはコロケーション的に結びつきが強いものが多く、一方依存のものであることが観察される。

- (32) 知らず知らずのうちに、涙がぼたりと落ちた。  
(PB59\_00266 113730 72720)
- (33) 「そうなんっすか」と、A元君。眼鏡の奥のつぶらな目をぱちくりさせている。  
(PB29\_00573 20450 13790)
- (34) うつらうつらしているとき、突然、天の声を聞いたような気がしました  
(PB24\_00228 34930 22540)
- (35) うつらうつらと眠りに入ろうとした。ドンドン、外で婆サンの金切声が聞こえた  
(PB19\_00061 112890 74370)

#### 4.3. 個別コーパスにおけるオノマトペの出現頻度

ここでは、本稿で研究対象にしているオノマトペが、それぞれのコーパスにおいてどのように現れているのかについてみていく。それぞれのコーパスにおけるオノマトペの用例数が多い順に示したものが付録 1<sup>14</sup>である。まず、それぞれのコーパスにおいて出現数が上位にあるオノマトペについて、つぎに、それぞれのコーパスにおいてオノマトペの出現数にどのような違いがあるのかについてみていく。

まず、それぞれのコーパスにおいて出現数が上位にあるオノマトペについてみていく。付録 1 に示しているように、すべてのコーパスにおいて「ちょっと」の用例が最も多いことが分かる。それぞれのコーパスにおいて使用されたオノマトペの総用例数(表 10)における「ちょっと」の割合を見ると、CWPC(現日研・職場談話コーパス)では約 57%、CEJC(日本語日常会話コーパス)では約 52%、CSJ(日本語話し言葉コーパス)では約 49%、NUCC(名大会話コーパス)では約 44%、SSC(昭和話し言葉コーパス)では約 37%、NWJC(国語研日本語ウェブコーパス)では約 18%、BCCWJでは約 13%を占めている。このように、約 50%を超える CWPC と CEJC とともに会話コーパスであることが分かる。そして、ほぼ 5 割に近い CSJ と NUCC や、約 37%を占める SSC とともに会話コーパスである。CSJ に関しては、その他の自然会話コーパスと違い、自発音声を集めた独話タイプの資料であるが、「ちょっと」が使われる割合は自然会話データを資料としているコーパスとあまり差がないことがわかった。書き言葉を中心としている NWJC と BCCWJ においては、検索対象語との割合からみると、その他のコーパスより低くなっている。

用例数が多い順に 2 位のオノマトペについてみていく。BCCWJ、NWJC、CEJC、SSC の 3 つのコーパスにおいては「ずっと」の出現数が 2 位であるが、CSJ、NUCC 両コーパスにおいては「ちゃんと」が 2 位で、NWJC のみ「しっかり」が 2 位になっている。同じく、BCCWJ において、「はっきり」が 3 位に入っているが、他のコーパスにおいては助詞「と」を必須とする「ちゃんと、ずっと」が 3 位に入っている。

それぞれのコーパスにおける用例数が 1 位から 10 位までのオノマトペを確認すると、「きっと、ずっと、ちょっと、ちゃんと」の 4 語はすべてのコーパスにおいて 10 位に入っている。書き言葉中心の BCCWJ ではその他のコーパスにおいて 10 位以内に入っていない「きちんと」が 8 位に入っているが、会話コーパスの SSC においては 45 位になっている。NWJC における「たっぷり」も同じく、書き言葉コーパスの BCCWJ において 14 位になっているが、話し言葉コーパスにおいては CEJC が 76 位、CWP が 62 位、NUCC が 52 位とコーパスによって出現数にはかなりばらつきがあるようである。

<sup>14</sup> 紙幅の関係上、付録として稿末に提示している。

CEJCでは、今まで上位にあがってこなかった「ぐるぐる」、「がんがん」「めちゃめちゃ」「ぎりぎり」などのオノマトペの出現頻度がほかより高くなっていることが分かる。このように身体の様子を表す「頭ががんがん痛い」や「締め切りぎりぎりに出した」など、日常生活でよく耳にするオノマトペが上位にあることは自然会話コーパス CEJC の特徴であると言える。

つぎに、それぞれのコーパスにおいてオノマトペの出現数にどのような違いがあるのかについてみていく。BCCWJ においては、すべてのオノマトペの使用例が確認できた。用例数が少ないオノマトペを順に見ていくと、「ぐうぐう」が 14 例、「しょぼん」が 15 例、「ぺったり、びちゃびちゃ、ぎすぎす」の 3 語がそれぞれ 16 例である。NWJC も同じくすべてのオノマトペの用例は確認できたが、出現頻度が最も低いオノマトペは「ぎざぎざ、ぎすぎす」で、それぞれ 1 例ずつであり、「おずおず」が 4 例であった。

次に表 13 に、用例数が確認できていないコーパスとオノマトペの数を示す。

表 13：オノマトペの用例が確認できなかったコーパスとオノマトペ数

CSJ	CEJC	SSC	NUCC	CWPC
47 語	106 語	193 語	110 語	238 語

CSJ において、47 語のオノマトペは用例を確認することができなかった。笑う様子を表す「くすくす」やレシピのオノマトペではよく使われる「しゃきしゃき」<sup>15</sup>、雨が降る様子を表す「ぽつぽつ」などのオノマトペは、普段の日常会話ではよく使われているという印象を受けるが、CSJ のように自発的な会話文においては使われない傾向にあることがわかった。CEJC で 1 例も確認できなかったオノマトペは 106 語あり、全体の約 32% を占める。SSC では、1 例も確認できなかったオノマトペが 193 語で全体の半数を上回り、約 58% を占めている。同じく、会話コーパスの NUCC でもオノマトペの使用例が確認できなかったのは 110 語で約 33% を占める。職場談話を中心にした会話コーパスの CWPC においては、用例が 1 例もないオノマトペは 238 語で、全体の約 71% をも占めている。

このように、コーパスの性質、規模によって調査対象であるオノマトペの使用傾向や出現頻度も大きく変わってくる事が分かる。

## 5. おわりに

本稿では、日本語教育語彙表に収録されている語彙群の中からオノマトペの辞書を用いてオノマトペを選別することからはじめ、選別したオノマトペ 335 語の形態的特徴を明らかにした。そして、これら 335 語のオノマトペがどのような文成分として使われているのか、日本語学習者がどのレベルで触れることができるのかを分析・考察した。最後にコーパスでの出現頻度について分析・考察を行い、これらのオノマトペがそれぞれのコーパスにおいて、出現頻度にどのような差をみせているのかについてもみてきた。

今後はオノマトペの多義的用法について詳しく分析を行っていく予定である。さらに、本稿では日本語学習者が使用している I-JAS からの用例を詳しくみることができなかった。I-JAS におけるオノマトペの誤用例を分析することで、学習者にとって、オノマトペの習得にはどのような困難点があるのかを理解することができると思われる。そしてその分析結果は日本語教育におけるオノマトペの選定に役立つと考えられるため、I-JAS における学習者が使っているオノマトペの使用例および誤用についてもより

<sup>15</sup> 黄 (2021) では、レシピにおけるオノマトペについて調査を行っているが、「しゃきしゃき」を含む「しゃき」を基本形とする「しゃき感、しゃきしゃきのうちに、しゃきっとさせる」などのオノマトペが 68 例使用されている。

詳しく分析していきたい。最終的には、オノマトペ教育に役立つように、オノマトペを整理し、日本語教育において必要なオノマトペの語彙リストを作成したいと考えている。

#### 参考文献

- 伊東真美.2015.『「オノマトペ+する」の語彙的意味とアスペクト性の研究』博士論文,九州大学
- 小野正樹・竹田晃子・川崎めぐみ.2021.「オノマトペ認定の差異とその基準—宮澤賢治「なめとこ山の熊」を題材に一」『日本語学会 2021 年度秋季大会予稿集』:115-120
- 寛壽雄.2001.「変身するオノマトペ」『月刊言語—特集楽しいオノマトペの世界』8月号第30巻第9号大修館書店:28-36
- 黄慧.2021.「レシピにおけるオノマトペ」『日本語／日本語教育研究会第13回大会』ポスター発表資料  
[https://www.cocopb.com/download/nichinichi2021\\_b4\\_huang.pdf](https://www.cocopb.com/download/nichinichi2021_b4_huang.pdf) (閲覧日:2022年11月1日)
- 田守育啓・スコウラップ, ローレンス.1999.『オノマトペ—形態と意味—』東京:くろしお出版
- 丹野眞智俊.2005.『オノマトペ《擬音語・擬態語》を考える:日本語音韻の心理学的研究』あいり出版
- 吉永尚.2019.「オノマトペの語形パターンに関する考察」『園田学園女子大学論文集』53:75-81

#### 【辞書】

- 浅野鶴子編, 金田一春彦概説.1978.『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- 阿刀田稔子・星野和子編.1995.『擬音語擬態語使い方辞典』創拓社
- 天沼寧編.1985.『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版
- 小野正弘.2007『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館
- 曹金波.2008.『標準日本語擬声語・擬態語』大連理工大学出版社
- 飛田良文・浅田秀子編.2002.『現代擬音語・擬態語用法辞典』東京堂出版
- 山口仲美編.2003.『暮らしのことば擬音・擬態語辞典』講談社

#### 【参照した web サイト】

- 日本語教育語彙表: <https://jreadability.net/jev/>  
まとめて検索(試験公開版)『KOTONOHA』 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

#### 【データのダウンロード】

「日本語教育語彙表 Ver1.0」(<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV/> 日本語学習辞書支援グループ 2015)

#### 【謝辞】

本稿を執筆するにあたり、研究員を受け入れてくださった指導教官、査読してくださった先生方々から、たくさん有益なコメントやアドバイスをいただいた。記して感謝申し上げる。

執筆者連絡先: [huanghui@hotmail.co.jp](mailto:huanghui@hotmail.co.jp)

原稿受理: 2021年12月10日

付録1：それぞれのコーパスにおけるオノマトペの出現数

		BCCW		NWJC		CSJ		CEJC		SSC		NUCC		CWPC
1	チョット	29,800	チョット	48,131	チョット	13,068	チョット	4,495	チョット	770	チョット	2,898	チョット	613
2	ズット	12,340	シッカリ	11,915	ズット	1,914	チャント	569	ズット	226	ズット	545	チャント	74
3	ハッキリ	10,452	チャント	11,254	ドンドン	1,383	ズット	559	チャント	150	チャント	508	ズット	62
4	シッカリ	9,800	メチャ	9,962	ダンダン	1,162	メチャ	356	ダンダン	113	キット	294	ハッキリ	31
5	ユックリ	8,216	ズット	9,670	チャント	778	キット	293	ハッキリ	108	ビックリ	257	ドンドン	30
6	キット	7,672	ビックリ	9,472	キット	751	ビックリ	208	ドンドン	76	ドンドン	126	キット	20
7	チャント	7,495	キット	8,122	ウント	741	ウント	180	キット	60	ダンダン	122	ウント	20
8	キチント	5,375	タップリ	6,106	ハッキリ	622	ドンドン	171	ウント	34	ソロソロ	91	バラバラ	17
9	ドンドン	5,124	ユックリ	5,315	ビックリ	448	ダンダン	121	シッカリ	27	ユックリ	87	ビックリ	16
10	ビックリ	4,793	ピッタリ	4,989	シッカリ	355	ユックリ	84	パット	22	パット	81	ダンダン	12
11	スッカリ	4,754	スッキリ	4,182	キチント	340	シッカリ	71	グルグル	19	ハッキリ	73	シッカリ	12
12	ジット	4,238	ドンドン	3,789	ユックリ	285	パット	63	ビックリ	18	シッカリ	72	キチント	10
13	シバシバ	3,468	パット	3,750	パット	203	ソロソロ	62	ガタガタ	18	メチャ	55	パット	8
14	タップリ	3,465	ハッキリ	3,721	ザット	119	ギリギリ	55	ユックリ	17	スット	52	ソロソロ	6
15	フト	3,406	ソロソロ	3,521	バラバラ	114	メチャクチャ	54	スッカリ	17	メチャメチャ	47	バッチリ	6
16	ダンダン	3,332	ドキドキ	3,074	ボウット	108	ハッキリ	41	ソックリ	15	メチャクチャ	45	メチャメチャ	4
17	ソロソロ	2,994	キチント	2,918	ソロソロ	105	グルグル	40	ソロソロ	14	ウント	41	ギリギリ	4
18	ホット	2,382	スッカリ	2,815	グルグル	101	ガンガン	40	サッパリ	14	ギリギリ	38	ボロボロ	4
19	ソット	2,366	ニコニコ	2,717	ノンビリ	92	メチャメチャ	35	ガッカリ	13	バリバリ	33	チョコチョコ	4
20	ピッタリ	2,257	バッチリ	2,602	ヒョット	90	キチント	30	チョイチョイ	12	キチント	29	キッチリ	4
21	スッキリ	1,922	ワクワク	2,451	ジット	88	フト	24	ノンビリ	11	バラバラ	27	ザット	4
22	サット	1,875	メチャクチャ	2,279	ホット	83	サッパリ	23	スット	9	ボロボロ	23	スッポリ	4
23	サッパリ	1,784	コソソリ	1,884	ピッタリ	76	ザックリ	23	グット	9	サッパリ	22	ユックリ	3
24	ノンビリ	1,748	ノンビリ	1,854	フト	74	バリバリ	21	シバシバ	9	スッカリ	21	メチャクチャ	3

		BCCW		NWJC		CSJ		CEJC		SSC		NUCC		CWPC
25	ボンヤリ	1,678	ジックリ	1,752	シバシバ	74	チョコチョコ	21	バラバラ	8	ダラダラ	20	サッパリ	3
26	ドウドウ	1,669	ユツタリ	1,717	スッカリ	71	ソックリ	20	チョコチョコ	8	フット	18	スッカリ	3
27	イライラ	1,639	サット	1,670	ツクヅク	70	バラバラ	19	ドウドウ	8	ホット	17	フット	3
28	ソックリ	1,633	フワフワ	1,612	ギリギリ	69	スッカリ	19	ギリギリ	6	ジット	17	ノンビリ	3
29	パット	1,565	ダンダン	1,593	タツプリ	64	キツチリ	17	ドキドキ	6	ズラット	17	ピツタリ	3
30	ジックリ	1,546	スット	1,567	スット	63	スッキリ	16	パタパタ	6	グルグル	16	パンパン	3
31	アッサリ	1,511	サッパリ	1,538	キツチリ	63	ドキドキ	16	ホット	6	ソックリ	16	チラット	3
32	ヒョット	1,471	シットリ	1,432	スッキリ	61	チョコチョコ	16	タツプリ	6	ボウット	16	パタパタ	3
33	ユツタリ	1,295	アッサリ	1,370	イライラ	61	フワフワ	16	ソット	6	イライラ	16	コツテリ	3
34	バラバラ	1,291	フト	1,336	ボロボロ	58	ノンビリ	15	フット	5	フト	16	ウツカリ	3
35	サッサト	1,239	ソックリ	1,315	ガツカリ	56	ボロボロ	15	ポンポン	5	ニコニコ	15	ガツガツ	3
36	ドキドキ	1,182	グット	1,294	ゴチャゴチャ	54	ポンポン	15	ブツブツ	5	グット	14	ダラダラ	2
37	メチャ	1,157	ホット	1,288	ドキドキ	49	ジット	14	ゴロゴロ	5	チョコチョコ	14	ズラット	2
38	ハット	1,122	チョップリ	1,282	グット	49	ピツタリ	14	ゴチャゴチャ	5	フラフラ	14	グルグル	2
39	グット	1,116	フンワリ	1,274	ダラダラ	49	ワクワク	14	ボウット	5	キツチリ	14	ニコニコ	2
40	チラット	1,040	チラット	1,216	ワクワク	47	バツチリ	14	サッサト	5	ノンビリ	13	ガンガン	2
41	コッソリ	1,030	イライラ	1,200	ジックリ	47	チラット	13	ビクビク	5	ドキドキ	13	ヒョット	2
42	ニコニコ	972	ドウドウ	1,191	ユツタリ	47	ツルツル	13	ドッサリ	5	アッサリ	13	グチャグチャ	2
43	ガツカリ	965	ウツカリ	1,167	サット	47	フラフラ	12	メチャクチャ	4	バツチリ	13	サット	2
44	ニッコリ	914	メチャメチャ	1,163	サッパリ	47	クルクル	12	キチント	4	ピツタリ	12	バサバサ	2
45	フット	903	サッサト	997	ソット	44	パンパン	12	ピツタリ	4	ガンガン	12	ユツタリ	2
46	ワクワク	893	ガツカリ	972	メチャクチャ	43	アッサリ	12	クルクル	4	ヒョット	12	ズルズル	2
47	スット	874	ギユット	965	フット	43	コロコロ	12	ニコニコ	4	スッキリ	12	ギユット	2
48	メチャクチャ	841	バラバラ	861	ウロウロ	43	パタパタ	12	チョップリ	4	パンパン	12	ポンポン	2
49	キツチリ	824	グルグル	858	ニコニコ	41	イライラ	11	ツクヅク	4	ベラベラ	11	ゴツチャ	2
50	ウツカリ	816	ヒョット	823	ワイワイ	41	ガタガタ	11	ウツカリ	4	ウロウロ	11	ガチャガチャ	2